

ご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
HITACHI ASIA LTD
Managing Director
酒井 真一



この度シンガポール日本商工会議所の理事を務めさせて頂くことになりました、日立アジアの酒井と申します。前任佐々木の後任として、本年4月1日付けにてインド・ニューデリーよりシンガポールへ赴任して参りました。

私は、シンガポールへの赴任は二度目となります。最初の赴任は、2000年～2003年にかけてであり、マリナベイ地区はまだ何も無い埋め立て地の頃でした。メトロもレッドラインとグリーンラインの二本だったと記憶しております。20年以上経ってのこのシンガポールの大発展に大変驚いております。

当時のシンガポールを振り返ってみますと、為替レートは1ドル65円～70円の時代。チャンギ空港も第一・第二ターミナルのみ、第三ターミナルは建設中。前回駐在の際の私の日立アジア社での主な業務は電力営業として、火力発電所向けに当時の日立製のボイラー・タービン・発電機を納入していたパワーセラヤ、セノコパワー、ツアスパワーと自ラ車を運転しながら現場を日々訪問していたのを覚えています。また、2001年9月11日の米国世界貿易センターのテロ事件を機に、ジュロン島へのアクセスもそれまでは自由に渡れましたが、島へ向かう途中で検問所が設けられ通行パスが必要になった時期でした。その当時のシンガポールに比べても、現在のこの国の発展振り、特に何処へ行くにもメトロ・バス・Grabがあり非常に便利な交通手段、世界各国の食文化が堪能出来る豊富な数のレストラン、そして、この国が秘めている躍動感の様なものを感じます。特に私の場合はインドから赴任してきておりま

すので顕著なのかもしれません。

直近駐在しておりましたインドについて若干触れておきますと、2020年4月～2024年3月まで駐在しておりました。その4年間の内約1年弱は新型コロナウイルスの爆発的な大感染のため一時日本へ退避するなど、前半の2年はコロナに翻弄された日々でした。後半の2年間は、経済成長目まぐるしい中、恐らく自分の体感よりも更に速いスピードで発展し続けていたと思います。今後の日本にとっても弊社日立グループにとってもインドは重要な市場になると考えております。その様な中を今般シンガポールへ再度赴任してきた訳ですから僅かな期間ながらインドを知るものとして、シンガポール及び管掌の東南アジア各国とインドを繋ぐことで貢献出来ることがあるのではないかと考えております。

2040年までに世界のGDPの50%をアジアが占めると言われる中、アジアへの玄関口として信頼を得ているシンガポールにおいて、この国の安定性、中立性、発展性からしても果たすべき役割は多々あると考えてます。その様な事業環境下で、再度シンガポール、そしてASEANでビジネスに携われることに大変喜びを感じております。

今般シンガポール日本商工会議所の理事を拝命するにあたり、微力ながら会員の皆様のお役に立てます様努めて参る所存です。最後になりますが、会員企業の皆さまの益々のご健勝とご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。